

ぼし
いちばん星のおくりもの

やかん ちゅうがっこう まど かがや
夜間中学校の窓に輝く

さく
作 サラン
え
絵 いろどりあつめ



ぼし
いちばん星のおくりもの
やかんちゅうがっこう まど かがや
夜間中学校の窓に輝く

さく
作 サラン
え
絵 いろどりあつめ



「キンコンカンコン」

「こんばんは」「ニーハオ」「アンニョン」

いつものあいさつで始まる夜間部に今日もあの人がやってきます。

大きなリュックを背負って。



いろいろな国、世代の人が集まる、

ここは夜間中学校。

新入生の原さんは今年で88歳になります。

彼がこの学校に入学したのは、理由がありました。



戦争の終わる年、原さんは国民学校に通っていました。

戦後、新しい学校制度に変わったため中学校を卒業していないことになっていました。

「今でもだれもない教室が夢に出てきて…

人生の宿題を残したままなんです」

と、話してくれました。





ある日、新聞の片すみに小さな記事を見つけた原さん。

『夜間中学校 生徒募集』

わけあって昔、中学校に遇えなかった人たちが学べる場所。

そんな場所があると知った原さんは、学校を見学することにしました。

学校にはネパールやモロッコなど様々な国、世代の人が学んでいます。

先生の説明もていねいで、みんな一生けんめい勉強している姿を見て

自分も授業を受けたくなくなった原さんでした。しかし…



学校からの帰り道、原さんは考えました。

「この歳になってみんなといっしょに

学校にかよえるだろうか…」

不安はありましたが、

人生の宿題をやりとげようと入学を決意したのでした。

ためしよみ

は

ここまでです